

中間報告書

～平成21年4月1日から平成21年9月30日まで～

焼津水産化学工業株式会社

天然素材のフィールドで、“おいしさと健康”を追求します。

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、ここに平成22年3月期中間報告書をお届けするにあたり、事業の概況についてご報告申し上げます。

当中間連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）の食品業界は、「食」の安全・安心の問題、原材料価格の不安定化、消費の伸び悩みなどにより、引き続き厳しい環境下にあります。

このような状況の中、当社グループは“おいしさと健康”をテーマに事業活動を展開するとともに、「3カ年中期経営計画」の最終年度として企業価値の向上に取り組みました。

当中間連結会計期間の売上高は、調味料事業において粉末製品の販売が好調だったことや、水産物事業での取引顧客の拡大により113億42百万円（前年同期比9.5%増）となりました。営業利益は、原料・燃料価格の低下に伴う製造コストの減少や



代表取締役社長

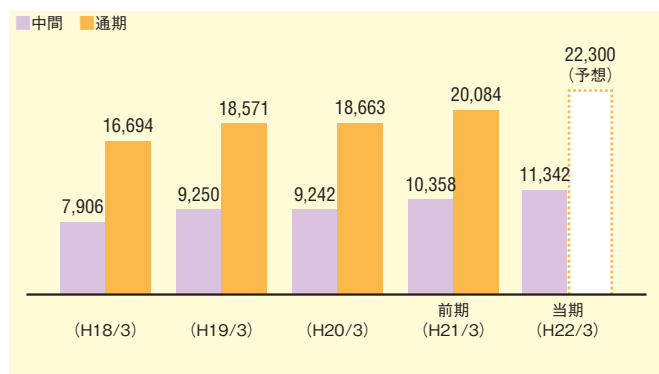
坂井和男

経費削減効果などにより、9億39百万円（同77.3%増）、経常利益は10億5百万円（同71.5%増）、中間純利益は6億25百万円（同89.2%増）となりました。

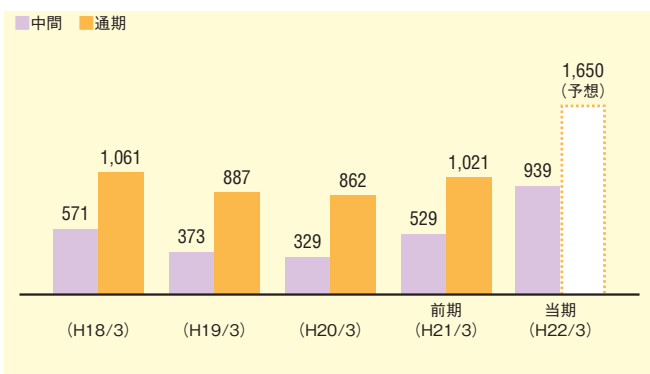
下期につきましては、今後の消費動向の変化などによる不安定要因はありますが、引き続き調味料製品の販売が継続し、子会社においても安定した売上を見込んでおります。

今後とも株主の皆様のご理解を賜り、末長いご支援をいただきますようお願い申し上げます。

連結売上高（単位：百万円）



連結営業利益（単位：百万円）



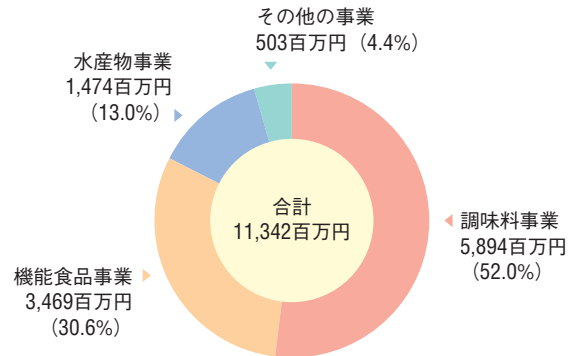
事業別の状況について

以下の説明における各分野の営業利益（損失）は配賦不能費用控除前のものです。

(単位：百万円)

	売上高		営業利益（損失）	
	平成21年9月期	前年同期比	平成21年9月期	前年同期比
調味料事業	5,894	+16.2%	913	+99.4%
機能食品事業	3,469	-5.7%	369	+15.0%
水産物事業	1,474	+30.7%	83	+2,155.2% (+21.5倍)
その他の事業	503	+5.1%	-18	—
配賦不能費用控除	—	—	-408	-13.8%
合計	11,342	+9.5%	939	+77.3%

事業別売上高構成比
(当中間期)



■ 調味料事業

景気低迷により国内需要は全体的に低調でしたが、特殊な乾燥方法を用いた粉末製品の販売が大きく伸び、全体の売上増加に貢献しました。この結果、売上高は16%増加し、営業利益は99%増加しました。



<天然調味料>

カツオエキス
昆布エキス
ホタテエキス
カニエキス
オイスターエキス
...etc

■ 機能食品事業

機能性素材製品の売上は順調に推移しましたが、流動食などの医療栄養食は一部取引先が内製化したことにより全体の売上高は6%減少しました。利益率の高い機能性素材の売上増加から利益率は向上し、営業利益は15%増加しました。



<機能性食品素材>

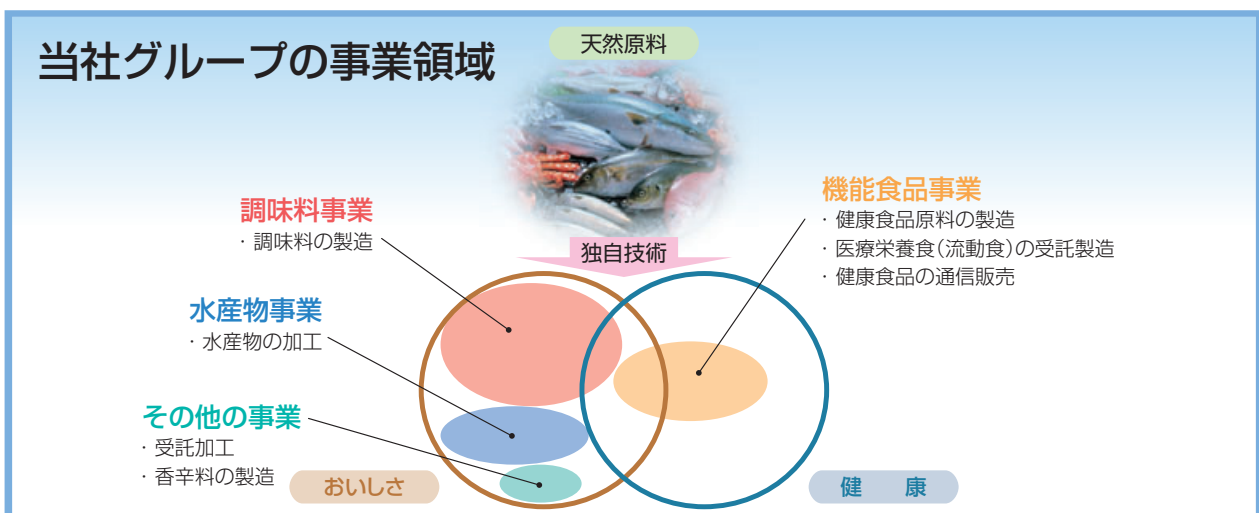
N-アセチルグルコサミン
アンセリン
マリンコラーゲン
フコイダン
コンドロイチン硫酸
...etc

■ 水産物事業

取引顧客の拡大によって、売上高は31%増加し、営業利益は22倍になりました。

■ その他の事業

売上高は5%増加しましたが、受託加工の採算性が低下して製造コストをまかないきれず、18百万円の営業損失となりました。



当社の取り組み

1. アンセリン認知度向上への取り組み

機能性食品素材アンセリンは、マグロやカツオから精製されるペプチド（アミノ酸が2つつながった物質）で、飲料やサプリメントなどに配合されるなど活用が広がっています。当社はアンセリンの認知度向上などに取り組んでいます。

(1) アンセリン配合の新商品を製薬、食品会社3社が一斉発売

大正製薬株式会社、日清ファルマ株式会社、日本ミルクコミュニティ株式会社の3社は、アンセリンを配合した新商品を9月1日、一斉に発売しました。新商品は粉末緑茶、タブレット、野菜飲料で、毎日の食事の際や仕事の合間、憩いのひと時など、さまざまな生活シーンに合わせて摂取できるようなスタイルとなっています。



勢ぞろいした3社の新製品

(2) アンセリン特設サイトの開設

当社のウェブサイトにアンセリンに関する特設サイトを開設しました。そこでは、図や動画を使ってアンセリンを分かりやすく説明しています。ぜひご覧ください。



アンセリン特設サイト

アンセリン特設サイト <http://www.yskf.jp/anserine/>

2. 環境への取り組み

・当社最大の工場の燃料を天然ガスに転換

当社は8月17日、大東工場（掛川市）のボイラーに使用する全ての燃料を、重油などから天然ガスへ切り替えました。

大東工場は、調味料、機能性食品素材、流動食など年間約9,000tの製品を生産する当社最大の工場です。今回の燃料切り替えは、地球温暖化対策のひとつとして行うもので、大東工場はCO₂を年間排出量の22%、年間1,000t削減できることとなります。当社では、2005年に燃料を天然ガス化している焼津・団地工場（焼津市）を含め、3工場のうち2工場が天然ガス化されることとなります。

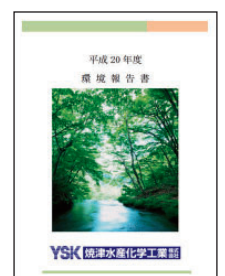
当社は今後とも、環境保護活動に取り組んでまいります。



大東工場に設置された天然ガスの貯蔵基地

2008年度の環境活動を紹介した環境報告書を当社のウェブサイトに掲載しています。

環境報告書 <http://www.yskf.jp/company/environment.html>



2008年度環境報告書

連結財務データ

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期末 (平成21年9月30日)	前 期 末 (平成21年3月31日)
(資産の部)		
流動資産	11,949	10,754
固定資産	9,854	9,773
有形固定資産	6,866	6,859
無形固定資産	49	54
投資その他の資産	2,938	2,859
繰延資産	3	7
資産合計	21,807	20,535
(負債の部)		
流動負債	4,087	3,358
固定負債	556	650
負債合計	4,644	4,009
(純資産の部)		
株主資本	17,195	16,766
資本金	3,617	3,617
資本剰余金	3,414	3,414
利益剰余金	10,169	9,740
自己株式	△ 5	△ 5
評価・換算差額等	△ 31	△ 241
その他有価証券評価差額金	△ 48	△ 233
為替換算調整勘定	16	△ 7
純資産合計	17,163	16,525
負債・純資産合計	21,807	20,535

Point

①<資産合計>

■受取手形・売掛金、現金および預金などの流動資産が増加したことに加え、投資有価証券の評価額が増加したことにより13億円の増加となりました。

②<負債>

■借入金は減少しましたが、買掛金などの増加により6億円増加しました。

③<純資産>

■利益剰余金の増加などにより6億円の増加となりました。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	前中間期 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)
売上高	11,342	10,358
売上原価	8,728	8,262
売上総利益	2,614	2,096
販売費及び一般管理費	1,675	1,566
営業利益	939	529
営業外収益	83	84
営業外費用	17	28
経常利益	1,005	586
特別利益	0	—
特別損失	9	26
税金等調整前中間純利益	995	559
法人税等	370	229
中間純利益	625	330

Point

①<売上高>

■調味料事業で粉末製品の販売が大きく伸びたことや水産物事業の取引顧客の拡大により10億円増加しました。

②<営業利益>

■原料・燃料価格の低下に伴う製造コストの減少や経費削減効果などで4億円の増加となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	前中間期 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	954	195
投資活動によるキャッシュ・フロー	6	△ 426
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 485	△ 300
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	△ 4
現金及び現金同等物の増加額(減少額△)	482	△ 535
現金及び現金同等物の期首残高	2,017	2,583
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	26
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,500	2,074

Point

①<営業活動によるキャッシュ・フロー>

■業績向上による中間純利益の増加などで8億円増加しました。

②<投資活動によるキャッシュ・フロー>

■設備投資による支出が減少したことなどから4億円の増加となりました。

③<財務活動によるキャッシュ・フロー>

■短期借入金が増加したことなどから2億円増加しました。

会社概要

(平成21年9月30日現在)

■商 号	焼津水産化学工業株式会社
■事 業 内 容	天然調味料および機能食品の製造販売
■資 本 金	36億1,764万円
■創 業 年 月 日	昭和34年5月15日
■取 引 銀 行	りそな銀行東京営業部／静岡銀行本店営業部
■社 員 数	271名
■事 業 所	

静岡本部 〒422-8067 静岡県静岡市駿河区南町11番1号
 静岡本部 〒422-8067 静岡銀・中京銀静岡駅前ビル6F
 TEL.054-202-6030 FAX.054-202-6031

焼津本社

営業所 東京営業所 大阪営業所 名古屋営業所 静岡営業所 九州営業所
 工場 静岡県内3工場(焼津工場 榛原工場 大東工場)

■連結子会社

会社名	オーケー食品株式会社	会社名	マルミフーズ株式会社
資本金	50百万円	資本金	100百万円
当社の議決権比率	100%	当社の議決権比率	100%
主な事業内容	香辛料および調味料の製造	主な事業内容	水産物の加工販売

会社名	大連味思開生物技術有限公司	会社名	UMIウェルネス株式会社
資本金	450万米ドル	資本金	50百万円
当社の議決権比率	100%	当社の議決権比率	100%
主な事業内容	天然調味料および機能食品の製造販売	主な事業内容	健康食品の通信販売

株主メモ

■事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで。
 ■定時株主総会 毎年6月下旬に開催いたします。
 ■配当金・中間配当金 期末配当金については3月31日現在の株主に対し、中間配当金については9月30日現在の株主に対し、ご指定の方法によりお支払いいたします。

■単元株式数 100株
 ■上場金融商品取引所 東京証券取引所市場第1部
 ■基準日 (1) 毎年3月31日といたします。
 (2) その他必要ある場合には、あらかじめ公告をもってお知らせいたします。

■株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
 中央三井信託銀行株式会社
 (〒168-0063)
 ■同事務取扱所 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
 電話番号 (0120) 78-2031 (フリーダイヤル)

■同 取 次 所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

■公告掲載新聞 日本経済新聞に掲載いたします。

■株式に関する各種手続きのお申し出先
 1. 証券会社経由で証券保管振替機構(ほふり)に株式がある場合
 お客様が口座を開設している証券会社
 2. 特別口座に株式がある場合
 中央三井信託銀行株式会社
 お問い合わせは下記の証券代行部フリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。
 ●フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付:自動音声案内)
 ●ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html